



宗像郷土館 (昭和13年頃)

海の道むなかた館 春の特別展

偉人が残した未来への遺産

# 田中幸夫と 古代の宗像



土馬 稲元日焼原遺跡



鐘崎式土器 鐘崎(上八)貝塚



複弁八弁蓮華文軒丸瓦 畦町遺跡



土笛 香葉遺跡



鐘崎式土器 鐘崎(上八)貝塚

昭和13(1938)年に全国に先駆けてつくられた「宗像郷土館」。激動の昭和史と共に歩んだ閉館から再生への過程をパネル解説します。田熊石畑遺跡の発見者、田中幸夫氏が発見した数々の遺跡から出土した遺物などを展示。



海の道むなかた館

平成26年

期間

4月26日(土)~6月1日(日)

開館時間 9:00~18:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合は翌平日)



## 田中幸夫氏略歴

- 1901(明治 34) 年：福岡県浮羽郡吉井町(現うきは市)に生まれる
- 1926(大正 15) 年：國學院大學文學部国文科卒業
- 1931(昭和 6) 年：福岡県立宗像高等女学校へ赴任
- 1934(昭和 9) 年：宗像郡鐘崎貝塚を鏡山猛氏らと発掘調査
- 1938(昭和 13) 年：宗像郷土館完成
- 1950(昭和 25) 年：浮羽郡吉井町珍敷塚装飾古墳発見、鳥船塚発見
- 1982(昭和 57) 年：肺炎により逝去、享年 80 歳



田中幸夫氏(昭和56年7月撮影)

## 鐘崎(上八)貝塚の発見



▲鐘崎(上八)貝塚

鐘崎(上八)貝塚は、福岡県宗像市上八の海岸砂丘上(標高 12.6m)にあります。この貝塚の調査は、昭和 9 (1934) 年に田中幸夫氏や九州大学の鏡山猛氏により初めて行われました。その結果、現地表下約 1m のところに厚さ 30~90 cm ほどの貝層がありました。

合計 3 回の調査がおこなわれ土器類のほか、<sup>ろっかくせいこうがい</sup>鹿角製筭、サメ歯製耳飾、人骨などが見つかかり、ブリ、タイ、フグなどの魚類、サザエ、アワビ、カキ、シジミ、カワニナなどの貝類、猪や鳥類の骨が確認されました。

この遺跡から見つかった土器は、縄目文様をつけた後で磨いて文様を残す磨消縄文という装飾を施した「鐘崎式土器」と呼ばれ、<sup>すりけしじょうもん</sup>縄文時代後期前半(四千~三千年前)の<sup>ひょうしきいせき</sup>標式遺跡となっています。

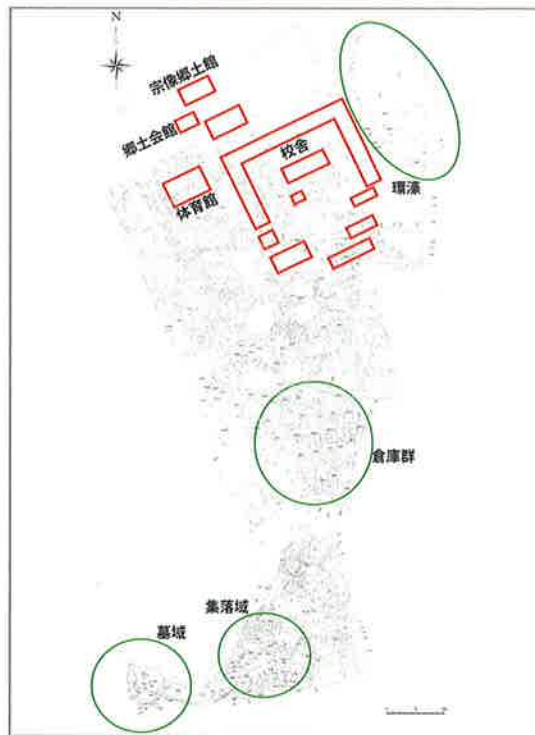
## 田熊石畑遺跡の発見

田熊石畑遺跡は、宗像高等女学校の新運動場拡張に伴って、昭和 8 年に田中幸夫氏によって発見されました。この時に多量の弥生土器・石器などが出土し、出土遺物は、昭和 13 年に開館した「宗像郷土館」に収蔵・展示されていました。

田中幸夫氏の発見から 75 年後の平成 20 年 4 月 30 日から市による発掘調査がおこなわれました。この調査の結果、弥生時代の墳墓群、集落跡、環濠、粘土採掘坑、古墳時代の倉庫群が確認されました。また墳墓群から<sup>どうけん どうほこ どうか ぶきがたせいどうき</sup>銅剣・銅矛・銅戈(武器形青銅器)が合計 15 本出土しました。

その後、平成 22 年 2 月 22 日に国史跡の指定を受け、平成 26 年度には、発掘調査で出土した武器形青銅器 15 本と装身具の全てが国指定重要文化財の指定を受けます。

田熊石畑遺跡と宗像女学校位置関係図 ▶



## 海の道むなかた館

宗像市深田588番地 TEL0940-62-2600 <http://searoad.city.munakata.lg.jp>

